

数学

大阪大学[理系] (前期)

<全体分析>

試験時間	150 分	解答問題数	5 題
------	-------	-------	-----

解答形式

記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴

例年同様、数学Ⅲの比重が高めであった。

その他トピックス

文理共通問題は1問 (一部の設問のみ一致するものがもう1問) あった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
①	微分法	数学Ⅲ 数学Ⅱ	接線の方程式 3次関数に帰着される最大・最小問題	標準
②	空間ベクトル	数学B	位置ベクトル、内積	標準
③	微分法、積分法 極限	数学Ⅲ	微分法の不等式への応用 定積分と不等式、区分求積法	やや難
④	積分法、整数	数学Ⅱ 数学A	2次関数の定積分 不定方程式の整数解の個数	やや難
⑤	微分法	数学Ⅲ	微分法の方程式への応用 複接線の存在する条件	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

いずれの問題も完答するには数学的な考察をしっかりと行うことが必要であり、基本事項の単純な組み合わせで解決できるような問題は少ない。日頃の学習において、単に問題を解くことに満足せず、高度な知識を身につけることや、柔軟な着想や運用、また、表現の意味や問題の背景にある数学的内容を確認することなどに留意して学習してほしい。